茨城県　グループホーム石岡やすらぎ　　記入日：平成19年9月8日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ 　部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	〇地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族と地域の繋がりを大事にして笑い声の絶えないホームを作る」と、石岡やすらぎの基本理念として作り上げており、廊下に提示してあり、職員が毎日把握している。		立上時の基本理念の為、職員交代もしているので今年中に作り直したい。
2	〇理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時、基本理念を再確認している。		
3	〇家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には契約時、重要事項説明書に明記し確認すると共に、ホーム玄関に運営規程を提示して家族や地域の方々に理解してもらえるようにしている。		今後は運営推進会議や家族会等で変更した際には再度説明して取り組んでいきたい。
2．地域との支えあい				
4	〇隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議を開催し、町内会の方々に参加してもらっている。隣近所の方々にお花や野菜等を頂いている。行事の時にもチラシを配って参加してもらっている。	〇	畑作り等を教えて頂きながら一緒に勉強して楽しんでいきたい。
5	〇地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事への参加に務めている。草取り等への参加、大谷津自治会への参加、年4回の新聞発行の実施、南小学校のパトロールに参加している。	〇	地域イベントへ参加等、積極的に働きかけを行っていきたい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の活性化を目指して年に一度バザーを催し、バーベキュー等しながら地域交流をしている。	○	今後はホームで認知症を理解してもらう為の勉強会を開いたり、自治会や婦人会に働きかけ介護教室を開くなどしていきたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を基に、指摘されている部分は具体的な改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	次回の運営推進会議では今回の外部評価の結果を報告するつもりである。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者交代中なので、市町村へは後任者が出向き、挨拶をした。運営推進会議にも出席して頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護事業の勉強会に参加している。現時点では権利擁護が必要な方はいないが、必要な方が入居された際は活用出来るよう支援していく。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束に関してはマニュアルを作成し、職員と共に確認している。居室やホーム内全体においては職員全員に注意を払っている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書だけでなく、運営規程、重要事項説明書、基本運営方針等を全て家族と読み合わせをして理解を得ている。解約の際も同様である。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現時点では特別な取り組みは行っていないが、職員が出来るだけ利用者の苦情を受け止めるようにしている。		今後、介護相談員制度を利用する等、行政に連絡を取る予定でいる。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族へ預かり金の内訳明細連絡事項と、担当職員からの手紙を含めたものを送付している。	○	今後は報告するだけに限らず、必要があれば返信用封筒等を同封し、お返事が頂けるようにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、電話・手紙等または面会時に家族の意見等を聞ける体制をとっている。目安箱を設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、職員と話し合いの場を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	3対1の介護を基本に職員を適正に配置している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職率が高く、利用者への影響は高かったと思われるので、今後は出来るだけ異動、離職を最小限に留めていきたいと考えている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において研修計画があり、積極的に研修を受けられるよう勤務を工夫している。個人の自己啓発による研修参加にも奨励しており、施設内においても勉強会を行っている。		年2回の法人内での研修が定期的に行われるようにしていきたい。
20	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今のところ取り組めていない		地域のグループホーム以外の施設とも連絡を取り合って勉強会など交流の場を持ちたいと考えている。
21	〇職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員全員では月１回ミーティングを行ってホーム内の問題等を話し合う機会を設けている。又、個別に職員の悩みなどは相談に応じている。		
22	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	経験や年数だけではなく利用者への接し方、認知症ケアの理解度などをみてパート職員から契約社員、正社員へと身分保障する等、本人の意欲を引き上げていくようにしている。又、資格試験に受験するよう奨励している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申込があった際、必ず家族の話のみではなく、本人の住んでいる場所（自宅、入所中の病院等）に出向いて実態調査を行っている。その際、本人の意向を十分に聞くように努力している。		
24	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの申し出があった際、調査票を用いてよく事実を確認するだけではなく、家族の不安や心情をきちんと聞く機会を設けている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの入居のみと焦って考えず必要に応じてサービス提供が出来るよう対応している。もともと関わりを持っているケアマネージャーや相談員と連絡をとって話し合ったりしながら必要な支援を考る場合もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状態に応じて、場合によっては家族の面会をしばらく控えて頂いたりしながら、まずこの場所に馴染める様にする事もある。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男女問わず、利用者本人が出来ることは出来るだけ行ってもらうようにしている。料理や家事を昔の体験を基に行って頂き、職員が逆に教えてもらうという場面もある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に毎月お手紙を出し、本人の状況をお伝えするということだけではなく、こちらからも提案して行事に参加して頂いたり、と共に支えあう関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでも本人と家族との関係の理解に努めてはいるが、過去に遡った話が出るとなかなか難しい場面もある。ただ、一方の話だけを聞かないよう、間に入ってより良くなるよう努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人などの面会や連絡などは積極的に受け入れている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人、個性があるのでその個性は尊重しているが、利用者同士が衝突しないように日々の関わり合いを職員が調整している。利用者同士が2人ずつ組になって係りを決め、支えあえるように努めている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転居先へ季節ごとのご挨拶のはがきを出している。	○	今後も定期的に様子を知らせる等していきたい。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人とよく話し合い、理解し、意向を把握していく。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	共同生活を送る中で、本人に今までの生活環境等を聞いていくことで把握していく。又、入居時、家族にアセスメント表を記入して頂き、過去の生活歴の把握に努めている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日利用者一人一人の生活記録をこまめに記入して把握するよう努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を開催して、それぞれの意見を取り入れて利用者主体の目標を立て、個性を活かしながら、一人一人の特徴を踏まえた介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して期間が終了する前に見直しを行っており、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。		

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は実施期間を明示している為、期間終了する際に見直しを行っている。個人記録はありのまま記入している。家族にも、来所された際に目を通して頂いている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望、或いは家族の申し出によって外出外泊時には家族の泊まりも受け入れるなど対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現時点では取り組んでいない。		今後、本人の意向があれば行政や民生委員と連絡を取りながら、その都度対応していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点では取り組んでいないが、運営推進会議を通じて他支援事業所との話し合いを進めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ地域包括支援センターとの連絡を取り始めたばかりである。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診、受診体制をとっており、今後も続けていく。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診、受診時に対応など詳しく聞き、ケアに取り入れている。カンファレンスの参加に意見を頂いている。		
45	〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療が入っており、Drとの関係が出来ているので特に看護師との協働は行っていない。		
46	〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関と随時連絡、相談を密に取り合い、連携が取れている。利用者、家族にも話し合いの時間を設けている。		
47	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医に家族へ説明していただき、今後についてホームを含め話し合いを行っている。終末期におけるターミナルケアについて、現時点では医療体制のバックアップが望めない中では考えていない。		
48	〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ないとホーム側で判断した場合、主治医に相談するとともに、家族とも話し合いの場を設けている。		
49	〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族からの申し出があった場合、或いは本人の意思を十分に尊重して次に行かれる先との話し合いを密に取りながら出来るだけショックを受けないように対応している。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重し、親切な対応、声掛けをしている、記録等は別の時間を設け、利用者の前では行わない。	○	
51	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思を尊重し、自立に向けての支援のお手伝いをする。	○	行事への取り組み等も、自己決定できるように支援していく。
52	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースや状態等を見極め、その日をどう過ごされたいか希望に沿って支援していく。	○	個人の趣味や、したい事への希望を出来るだけ叶えられる様に援助し、楽しい日を過ごされるようにしたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	理・美容院へは月1回のペースで行っている。その都度外出等応じて身だしなみを整えるよう声掛けしている。	○	整髪、整容、その他身だしなみに必要なものは本人と一緒に買い物に行くようにしていつまでもお洒落が出来るようにしていく。
54	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立を決めるのに皆で話し合い、行っている。又、調理や後片付けもその日の係りはいるが出来る人たちで分担して楽しんで食事作りに参加してもらえるよう職員も援助している。	○	月1回程度、外食を楽しんでいる。皆で行きたい処や食べたい物の意見を交換し、出来る限り皆で一緒に楽しめるようにしていく。
55	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは食べたい物の意見を出し合い皆で決めているが、一人一人に不満がないとは言えないと思う。		なるべく一人一人に合わせた嗜好品を1つでも日常的に楽しんでもらえるよう取り組んでいきたい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄のパターンを把握して、声掛け等にて失敗を減らしている。	○	失禁等個人のプライバシーに関わるので対応時には他の利用者への配慮も心掛けている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	皆が気持ちよく生活できるように個人の望む時間に入浴して頂いている。	○	体調の不具合により入浴を拒まれるときは清拭を行い、又、足浴、手指浴にて清拭を保持している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調管理を一緒に心掛けて、日中気持ちよく過ごして頂き、安心して休息・安眠して頂く様努めている。	○	夜間、安心して休まれる様、日中の過ごし方への配慮を職員が連携して支援している。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の持てる能力に応じて、楽しみ事や出来る事をして頂けるように日常生活において楽しく行えるように支援している。	○	野菜作り、花の水やり、草取り、手芸、テレビ、ビデオ鑑賞、カラオケ等を楽しんで行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月、お小遣い帳のチェックとその都度買い物にした事の記帳を本人と一緒にチェック、お金の使用目的の配分も一緒に行っている。	○	本人の希望される物への貯金をしようと計画して行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と一緒に食材や日用品の買い物に参加してもらっている。	○	本人希望時、必要に応じて職員が付き添って戸外に出掛けている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事等にて家族と連絡を取り参加して頂いている。	○	なるべく月1回程度は他の利用者と一緒に外出の機会を設け、参加して頂いている。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されたときに時間等迷惑の掛からない時間帯に電話を掛けて頂いている。手紙は本人が書けないときは代筆し、やる取りできる様援助している。	○	毎月1回、職員が担当家族へ手紙を書いてご挨拶と、利用者の状態を連絡している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	随時、来所して頂き、楽しい時間を過ごして頂ける様に連絡を取り、機会を提供している。		家族が遠方にて電話、書面での連絡になってしまい、なかなか来所して頂けるまでには至っていない事が多い。
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止には正しく認識、理解しており、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	○	見守り、身体介護の必要なときには必ず職員一人がついて、歩行、移動介助等に付き添ってケアを行っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、開放して自由に出入りできる様にしてある。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	4交代制による職員勤務体制に利用者の昼夜の安全に配慮している。	○	今後も継続して安全に配慮していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全に過ごして頂ける様毎日の掃除、整理整頓を一緒に行い、危険を防ぐ為に利用者に声掛けし、注意をしていただけるよう説明する。		危険物、保管場所、管理体制においてはもう一度見直し、取り組む。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員研修において、事故防止の知識の向上をはかり、事故防止に取り組んでいる。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回の職員研修にて定期的に行っている。救命救急の訓練を受け、緊急時の対応に備え、応急手当を行うことが出来る。	○	緊急連絡網を事務所へ提示してある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、実際に起きたことを想定して利用者と一緒に地域の方に協力を得て訓練している。	○	防災訓練に参加し、訓練を受け消防署、地域の協力が得られるようにしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態に応じて家族と連絡を取り、リスクについての説明を行い、理解を得る。		家族とのコミュニケーション不測になりがちでいる。連絡が取れていない状態が続いているので電話、FAX、手紙等あらゆる方法を用いて連絡を取っていきたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に状態把握に努め、身体状態の変化や異常を早期発見出来るようにし、記録に残して情報を共有している。	○	職員の申し送りや記録ノートにて、常に状態を把握している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、個人に応じて服薬がなされている。目的や副作用、用法、用量を確認し、症状の変化を確認している。	○	服薬の管理は職員が行っている。間違えの無いように本人と確認し合いながら一緒に服薬できるよう援助している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の健康チェック表にて確認している。献立にも工夫をし、全員で予防に対応しているが、個人差があるのでDrと連携を取り、薬を処方して頂く等配慮している。	○	ホーム内においても出来る体操等、健康維持出来る体操を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔清拭を行って頂き、職員も出来ないことを援助している。	○	毎週1回、訪問歯科受診を行っている。口腔ケア指導を一人ずつ受けている。

	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスにおいては栄養士指導の基調整を行っている。水分量については1日を通し、どれだけ摂取出来たかチェック表につけている。細めに水分摂取の声掛けを行っている。	○	栄養士による指導は今後も必要と考えている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗いうがいの徹底や食器類、布きん、雑巾等は塩素での消毒を行っている。又、掃除などにも塩素を使用し、雑巾掛けなどを行っている。	○	保健所による研修の参加。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間帯にて、食器、調理用具を消毒している。又、栄養士より食中毒予防の為の指導を受けている。	○	保健所による研修に参加。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口はスロープになっており、朝6時より夕方7時まで施錠を行っていない。自由に出入りできるようにしてある。		玄関周りに花を置きたいが、現在は虫が大量に発生したので撤去している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日が眩しいので天窓にはステンドグラスを貼って防いでいる。窓や玄関は開放して風通しをよくしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の外にベンチを置いたり、食堂席以外にソファーを置いたりして各々の気分に応じて過ごせる場所作りに努力している。	○	リビングが狭いので、いろいろな物が置けず、ソファーを一人掛けに変えたりしてくつろげる空間作りを行きたい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品、装飾品等が居室に置かれており、安心して過ごしている。	〇	手作りの装飾品、ボランティアの方々と共に作り上げた作品を居室に飾ってもらえるようにし、居室の整理にも積極的になって頂けるようにしていきたい。
84	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に注意し、室内等冷暖房の温度調節をこまめに行い、温度差が生じないよう配慮している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除は全員で行い、洗濯、食事作り、買い物等の係りを決めて役割を持って頂き、それを表示して利用者同士の衝突や混乱を避けるように工夫している。居室外の共有部分には荷物を置かずに整理して安全に心掛けている。		
86	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活全般でも色々工夫はしているが特に食事の場面では各自ランチョンマットを敷いて他の利用者との区別をしている。		
87	〇建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や畑を作ったり、草取りも出来ている。		

V．サービスの成果に関する項目			
項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

	項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・現状ではたまたま１ユニットしか稼働しておらず、利用者も６名と少ないですが、利用者の心身の変化に応じたきめ細やかな個別対応をするように特に力を入れています。
・高台にある立地条件がとても良い環境にある為、野菜作りや花作り、散歩等環境を利用して楽しんでいる。